

# がんばろう 南三陸町 復興第73号

# 南三陸マイタウン月刊情報

発行所  
千葉総合印刷株式会社  
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84  
TEL(46) 3069 FAX(46)3068  
企画・編集  
志津川広報センター



### 南三陸町に笑顔をお届けに

7月16・17日 長野県飯島町マジッククラブ  
(歌津伊里前公営住宅集会所公演)  
16日午後4時に到着予定の「飯島マジック倶楽部」の皆さんの到着が遅れていた。会場に観客を待たせる事の心配は的中してしまっ。長野から10時間掛けの来町は、走行中にも色々な問題もあり、本当にご苦労様でした。  
5名のマジッククラブの方の公演に、14人の団地の皆さんが集まって来て、マジックでは切った紙がそばに変わり、その試食を「おいしい、おいしい」と食べてくれた。会員の軽妙なトークとマジックに皆さんの笑顔が広がった。伊里前公営住宅では、自治会長さんの親切な準備活動により、無事に1日目を終える事ができた。



(志津川東団地西工区の「結の里」にて志津川公演)  
17日午前10時からの二日目の「飯島マジック」の公演は、社協の皆さんの支援と協力により開催する事ができた。  
当日はマジックショーの皆さんを、語り部活動をしている鈴木さんをお願いした。さんさん商店街のモアイ像の前で待ち合わせ、防災庁舎に手を合わせられる場所を案内していただいた。その後は支え合いモール「結の里」でのマジックショーには、東団地の災害公営の皆さん、そしてチラシを見た町民の方々、30名を超える人たちが集まって来て、楽しんで頂いた。

17日は午前8時に宿を出発し、役場・病院・福祉施設「結の里」と、防災庁舎の慰霊、さんさん商店街での食事と買い物を予定していた。



地区の皆さんと一緒に

今回は、歌津公演・志津川公演を開催し、合計50人を超える町民の皆さんに、マジックを楽しんで頂いた。そこには多くの笑顔が広がっていた。(社協さんへ信州みそを寄贈した。)

### 《飯島マジック倶楽部のこれまでの活動とメンバー紹介》

宮澤会長御夫婦、80歳の林さん、伊藤さん、前町長の高坂さんの5名の会員の皆さんと引率の竹澤町会議員、10時間の道のりを、長野県飯島町から来町頂き、1泊2日の弾丸ツアーだった。今回で3回目の公演で、前回までの公演では戸中仮設・平成の森仮設・志中仮設・登米市南方仮設を廻り野菜の物資と共に交流を深めた。

これまでも宮澤会長さんは、6年間13回自分が育て作ったじゃがいも・ネギの物資支援を南三陸町の被災者へ届ける活動を続けてくれた。飯島マジック倶楽部の皆さんの、これまでの活動に感謝申し上げます。



大震災慰霊塔で記念写真



### サンオーレ海水浴場

過去最高の6万人を超える(8月19日現在)



安全祈願祭でオープン

7月14日午前9時から、南三陸町・観光協会・海の家などの関係者約40名で、期間中の「安全祈願祭」を行なった。  
この日はガスが掛かっていたものの、30度を超える気温に子供たちが嬉しい声を響かせ、南三陸町志津川の人工海水浴場に浸かっていた。  
佐藤町長の「サンオーレ海開きです！」の挨拶でスタートし、待ち切れない子供たちは、すでに海辺で水に親しんでいた。  
7月22日は南三陸町のサンオーレは夏本番！目視で日曜日来場者約2000人以上の人出となり、今週も一週間好天の予想で、家族で海に親しむ姿は微笑ましい。砂浜にカラフルなテントが並び、子供達は今年初めての海に、大喜びで歓声が海水浴場に広がった。この日も「サンオーレそではま」の駐車場は満杯だった。「海の家」にも行列ができ、昨年分まで今年の売り上げとなる事を願いたい。トイレにも行



サンオーレに3軒の海の家

### 多くの南三陸町への支援者との交流会

震災から7年と5ヵ月が過ぎ、多くの団体・個人の受け皿として弊社は支援を続けてきました。  
宿泊は町内の民宿を活用し交流会を持ちました。民宿の色とりどりの品数の料理に来町した皆さんの驚きの一声で始まり、御馳走と大きな船盛りにお酒も話も盛り上がるの交流会でした。



注文により舟盛りも

今回の交流会は長野県飯島町にご招待を受けた沼倉さんも参加してくれ、挨拶と乾杯はほどほどに、友がまた来てくれた事を祝った。また、南三陸町一の「語り部」の遠藤さんを招き、当時を思い出しながら、30分間の話では災害と被災者の苦悩はまだ終わっていない事を説明してくれ、御馳走のお箸とお酒も止まった。

遅れて交流会を始めたため、夜9時を回っても店主のご理解の元、互いの親睦を深めあった。「また来てください」とは、これまでの心温かい活動の8年目も、そろそろ南三陸町の町民への支援からの、住民の自立の時期となったと感じた。



南三陸町の民宿のご馳走

列ができていた。水道で身体を洗う子供達も多く、もう少し設備を広く感じた。昨年のオープンで4万人の来場者予想も、冷夏のために半分にも届かなかった。  
今年は8月19日現在で6万人を超え、8月26日までの期間で過去最多の入り込みになった。



### 新しい南三陸町の名所として整備された 袖浜明神崎の「恋人岬」

南三陸町志津川の袖浜の突端に、景観の素晴らしい岬がある。以前は町が管理し整備していたが、忘れ去られていた。今回「南三陸町 KOIBITOMISAKI」として整備され、7月27日にオープン式典が開かれた。太平洋から登る「日の出」は、恋人たちの出逢い・船出の場にピッタリの場所です。

この新たな名所整備には、震災から南三陸町のボランティア活動を続けている方が、埼玉県の団体との橋渡しをし「恋人岬」の完成にたどりついた。2015年9月から2年以上を掛けての事だった。

ボランティア代表の阿部さんは全国からのボランティアに声を掛け総勢700名が集まり、素晴らしい恋人たちの場とした。支援団体の代表は「幸せの鐘」を造りカップルがつながりの絆を結び、今度はその子供たちが新しい恋人を連れて来る事により未来への希望が込められている。「未来の子供たちの為、日本の未来の為」と語る。

地主の1人明神崎荘の佐々木さんは、多くの人達が南三陸町に来てくれる事で、町の復興と発展を期待したいと話す。「北の恋人岬」は団体により、登録商標をすでに済ませている。



### LIVE・長野・原村 電音20度! 八ヶ岳生とうもろこし 長野県原村の 小林さんとの交流

元役場職員小林さんは南三陸町支援で繋がりが生まれた。自分の村を紹介する本を自費出版し、当社に寄贈頂いた。お返しは「志津川のマダコ」で、こんどは原村の特産品「八ヶ岳生とうもろこし」を送ってくれた。この間はテレビの「旅サラダ」で紹介され、原村のブランド品だった。生でも食べられ、絶品の味だった。

### 南三陸町人口の推移

(平成30年7月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
23年3月	17,064	7,823	2,296	1,884	5,061
30年7月	13,081	5,379	1,418	1,976	4,308
30年3月からの増減数	-60	5	-10	-30	-25
世帯数	4590	2103	474	655	1358

(2018年8月の新聞記事より)  
人口の減少が続いていたが、今回7月の発表では前月(6月)より南三陸町の総人口が初めて、6人の増加となった。入谷地区の震災後の増加も、自然死・流出により5月末より30人の大幅減少が見られた。

# 志津川広報センターに残った被災前の風景(1)



以前の志津川魚市場(大森)の「おすばでまつり」の賑わい風景



おさかな通りの交流館「汐風カフェ」この場所には町民の製作した品物がボックスで販売されていた。



南町に新設された「マルセン」さん、多くの来客の行列ができていた。



志津川湾の荒島の雪景色で以前の鳥居が写っている。



被災前の防災庁舎の玄関、この姿が鉄骨だけの建物と化した。



志津川地区の商店街のイベントに中学生も参加し、売り出しを盛り上げた。



戸倉小学校の体育館建設の空地となった頃



志津川上の山の避難所になった海円寺の「節分の豆まき」の風景



志中から駅前・汐見町の商店街と病院が見える。雪景色も美しい志津川地区があった。

## 未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成30年(2018年) 4月の出来事  
~ 地元報道より ~

### 南三陸町

- ◆南三陸町立伊里前小学校でプールの新築工事が完了。6月中旬頃に落成式を行い、供用開始となる。
- ◆南三陸町の職員辞令交付式が、町総合体育館ベイサイドアリーナで行われた。本年度の職員数は前年度より27人少ない292人。新規採用は13人で前年度から8人増やした。
- ◆春の交通安全が4月6日~15日まで全国一斉スタート。重点目標は子供と高齢者の事故防止などに総力を挙げる。
- ◆南三陸町の名物「キラキラ春つげ井」(春バージョン)が、観光客を楽しませている。春つげ井は4月30日まで。
- ◆南三陸町歌津伊里前の沿岸で白いナマコが見つかった。体長10cmほどで、タコ籠に入っていたのだという。

国立研究所45年推計公表によると、南三陸町は2045年時点の人口は6451人。現在より半減するとの見通しが示された。高齢化がさらに加速し、少子化対策や移住・定住策などが急がれる。

- ◆南三陸町の「地域おこし協力隊員」の辞令交付式が4日、町役場で行なわれた。関東地域から移住した新規隊員1人と任期更新者に委任状を手渡した。
- ◆春の交通安全運動の期間中(6日~15日)子供と高齢者の事故防止などを目標にさまざまな活動を展開する。死亡事故ゼロへ、関係団体約100人が参加して、出動式が行われた。

南三陸町の志津川郵便局が本設で7年ぶりに開局する。9日から新局舎で業務を開始する。

- ◆東日本大震災で被災した南三陸町戸倉駐在所が戸倉沖田地区へ移転新築した。7日に開所式が行われ、住民は地域の安全安心と治安向上に期待を寄せている。

◆気仙沼・本吉地方の各小学校で、新入学児童の登下校がスタートしたのに合わせ、防犯協会関係者や教職員、地域住民などが道に不慣れな子供たちに危険箇所、注意点を教えている。

南三陸町志津川の「さんさん商店街」が新設本設移転して1年が経過した。三陸道の延伸により来場者は仮設商店街時代の1.6倍65万人となった。5月の連休から8月までは上々の来場者数があったが、この1年で駐車場不足や接客対応への不満の声が多かったという。

◆南三陸町で10日交通安全街頭キャンペーンが行なわれた。歌津地区柞沢地内の国道45号交差点で実地し、ドライバーに無事故と安全運転を呼び掛けた。

南三陸町の3月末の人口は1万3141人で、53人の減少。復興事業の作業員の転居や地元高校生などの町外への進学・就職が主な要因とみられる。

◆南三陸町歌津の伊里前川で、シロウオ漁が始まった。今季は河口付近の水温が高く、例年より2週間ほど早い。5月13日にはハマレ歌津商店街で「しろうおまつり」が予定されている。

◆13日南三陸町志津川湾のいけすで飼育されていたサケの稚魚の海中放流が行なわれた。今年には昨年より2週間早い3月14日に、小森ふ化場から稚魚を海中いけすに放し飼育してきたもの。

◆南三陸町は災害公営住宅の空き室の一般公募を16日から27日までおこなう。被災者以外の一般開放を行なっていて、今回で3回目の募集となる。

◆12日町総合体育館「ベイサイドアリーナ」で南三陸町スポーツ少年団の団結式が行われた。スポ少10団体と2教室から約170人が参加した。

◆台湾の高校生21人が16日、学習旅行で来町した。きりこ作りや、防災学習などを実施したほか、民泊する。

◆南三陸町にサクラを植える支援活動している東京の団体が、21日志津川中央地入り口付近で「桜植樹祭」を開く。2012年から支援活動を続けていて、これまでに1600本を植樹している。

◆19日午後2時30分頃南三陸町歌津の寄木漁港で、地元漁業の男性(79)が海中に転落した。

右手に4針縫うケガを負ったが、命に別状はない。

南三陸町神割崎キャンプ場の「手ぶらでキャンプ」が好評。キャンプ場は4月1日から11月30日まで開場していて、手ぶらでキャンプは、1日3組限定で予約は3日前まで(46-9221へ)。

◆19日東京ヒルズライオンズクラブ(林敦美会長)が、南三陸町志津川保育所におもちゃや遊具を寄贈した。社会奉仕事業の一環として「子供たちを笑顔にしたい」との思いで届けた。

20日午後5時36分頃、南三陸町志津川廻館の町営志津川西復興住宅B棟でボヤがあった。台所の壁紙が焼けたが、けが人はいなかった。

◆21日南三陸町入谷にある「ばば山」に、シダレモモの苗木50本を植樹した。「ばば山が入谷地区の新名所になるように」と東北電力気仙沼営業所有志16人が参加して植樹した。

22日日本設移転した南三陸町歌津の商店街「ハマレ歌津」の1周年記念イベントが行なわれた。格安セールや買い物客に記念品を贈るなどのサービス、餅まきを行なった。

◆南三陸町立志津川保育所で、幼年消防クラブちびっこ消防隊の入会式が26日行なわれた。3歳以上の49人が参加した。

◆南三陸町図書館で「こどもの読書週間」にちなみ、子供向け図書を集めた特設コーナーが設置された。幼少期から本に親しみ、読書の楽しみを知ってもらうための週間。

◆南三陸町婦人防火クラブ連合会総会が26日町役場で開かれた。役員選では齋藤会長を再選し、役員数は現在の25人から9人減らし16人にした。

南三陸町志津川市街地で26日町道3路線が開通した。町役場や病院などへのアクセス、集団移転地間をむすぶ連絡道路。高台への避難道など利便性や安全性の向上が期待される。

◆南三陸町高齢者生活支援施設が完成し、27日落成式が行われた。子供からお年寄りまでが利用でき、デイサービス施設、地域の支え合いの生活サービス提供施設がある。